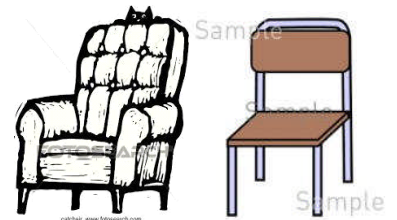


## 「えっ『腰掛け』？」～言葉に対する興味を～

4月のことです。アクトン校舎で3校舎の先生方全員が集まって研修会が開かれました。終了後に、私は「腰掛けを片付けてください。」と呼び掛けました。そうしたら、何人かが怪訝そうな顔をされ「えっ『腰掛け』？『椅子』のことですか？」と言われました。私は驚き、「チェアと言うべきでした。」とその場をごまかしたのです。

私の中では、「椅子」と「腰掛け」は、「ご飯」と「お米」や「船」と「舟」のように別物であって、「椅子」は肘掛けや背もたれなどが付いていて基本的にくつろぐ際に使用する物、「腰掛け」は4本程度



の足とお尻を載せる平板があるだけの作業をする際に使用する物にとらえ、実際に、ずっとそのように区別して使っていました。英語で言えば、前者は「シート」後者は「チェア」となるのでしょうか(自信はありませんが…)。

最近はどうのかな、あるいは、地域によって使い方が違うのかなと気になって、ちょっと調べてみました。そうしたら、諸説があるようですが、元々はやはり別物で、明治の時代になって西洋から「椅子」が伝わって来てから、これらは同義語として使われるようになったようです。

また、ある日本語に関する英語解説サイトには「腰掛け is chair and seat, that's okay too.」、「腰掛ける means "sit", it's same as 座る。」とありました。さらに「Mostly old people use the word.」と、わざわざ加えられた箇所もありましたが…。

「old people」の私は、改めて、言葉の使用について考えさせられたわけですが、それでは、同じなのかと思えば、「Nowadays 腰掛け has been known as another meaning. That is working at temporary job on one's way to the real goal.」と区別を考慮した解説もあり、ちょっと安堵しました。

言葉は変化するものです。乱れがみられたり、生まれては消えたりするものもあります。時代による流行の変化や技術の発達などを考えただけでも、それは当然のことのように思われます。

子どもたちには、ただ何となく言葉を使うのではなく、正しい言葉のつかい方を身に付けるよう指導しています。また、言葉の意味の裏側や歴史などに触れたりすることにより、言葉に対する興味を高めたいと思っています。英国に住んでいれば、英語と日本語との比較からおもしろい発見もあるのではないのでしょうか。ぜひ、ご家庭でも話題にしていただければと思います。